私保協ニュース

（No. ４１令和６年８月１９日号）

令和６年度第１回予算対策委員会を開催し、保育士の人材確保や負担の軽減について、皆さんで懇談しました。

◉　８月８日㈭15：00～17：20、TKP ガーデンシティ広島３階「ブルーダイヤ」において、当協会の一般会員、役員、広島市の山﨑幼保給付課課長さんを含む計４３名に参加していただいて、予算対策委員会を開催しました。

　この委員会は、翌年度の予算要望として、当協会が広島市に陳情する項目を皆さんと共に議論し、選択するために毎年この時期に開催しています。

　今年の委員会では、施設の大きな課題となっている保育士の人手不足への対応を採り上げて、参加者から保育士確保の先行事例やご意見を伺いながら、解決策を話し合いました。

◉　先ず、今回、司会を務めていただいた伊藤唯道副理事長より、『今、施設で困っていること』について問題提起があり、「産休・育休者が予想以上に増えているが代替者の確保ができない、人材紹介会社や派遣会社に頼ったが紹介料が高いなどの負担がある、育休復帰者に短時間勤務や常勤でも固定勤務の希望者が多いため、シフトの編成が難しく、朝、夕の勤務が増える保育士の不満が多い」などの話がありました。

◉　また、保育の現場では、「保育士の予想しない退職により人手不足になることもあり、そうした事態を避けるためには、年度当初に職員を多めに採用することが肝心で、施設の財政的な負担は増えるが、保育士の負担の緩和や職場環境・ワークライフバランスの維持・改善など、もたらされる利益の方が大きい」、その他「産休・育休で浮いたボーナスなどを頑張っている保育士や予定より早く復帰した保育士に支給する。産休・育休復帰者は「残業なし」と決め、他の保育士の中から残業希望者を募ってシフトを組めば、お互いが割り切った勤務ができる。単価が高くなっても朝、夕の各２時間だけ勤務できる人を雇用すれば皆が楽になる。開園時間の短縮や近隣園の土曜日の合同保育が実現すれば保育士不足も解消する」などの先行例や意見が出されました。

　施設の財政的な負担の話の中で、園長さんや保育士の給料カットという事例が話題になったときには、保育士不足の深刻さや働きやすい職場づくりの大切さを改めて思い知らされ、関係者の皆さんのご心労が偲ばれました。

（次ページに続きます）

◉　広島市の山﨑課長さんからは、「保育士の人材確保のためには年度当初に職員を多めに採用することに尽きる。そのための施設の財政的な負担には、先ずは内部留保を充てるのが『筋』である。

　広島市として保育関係の支援は、一義的には『施設への支援』を検討している。委員会資料の１９ページは、実は広島市が発案し、政令指定都市の全市の賛同を求めた上で令和７年度予算の政令指定都市要望として国に提出しているものであり、今回の件に関しても施設の財政支援として広島市の財政当局にも予算化に向けて働き掛けてみたい。

　広島市は、これまで人材確保の第一段として、離職者を減らすため貴協会に委託して『保育の相談窓口(保育士・保育所サポートセンター)』を開設していただいていますが、第二段として、配置基準を上回る保育士雇用のための人件費支援の要望を、国だけでなく、広島市に対して行っていこうと考えている」とのお話がありました。

◉　最後に、当協会の予算対策部長を務めておられる松尾竜副理事長が、次のように議論の締めくくりをされ、賛成多数で承認されました。

　「保育士不足に対応するためには、先ずは、現在、働いている保育士を辞めさせないことが肝要であり、保育士・保育所サポートセンターを活用しながら、魅力づくりの方策を広島市に引き続き働きかけていきたい。

　次に、産休・育休が予想以上に増える中で、年度途中の採用は非常に苦しいので、年度当初に多めに採用することが必須である。広島市内には保育施設への就職希望が叶えられないでいる学生も多いと思っている。

　委員会資料の１９ページは、広島市が国に要望されたものを、当協会でも「是」として全私保連・国に要望したものであり、本日の議論の趣旨に適っていると思われる。

　よって、この内容を今年度の陳情項目としたい。」

(情勢報告：講師　全私保連常任理事　丸山　純氏)

◉　今回の委員会では、一つのテーマに絞って、施設の現状や対策について、皆さんから忌憚のないお話しをいただいたことや、途中、参加者のスマホから一斉に緊急地震速報が鳴りだして、緊張したことなど、記憶に残る会議になったと感じています。

　ご参加いただいた会員や役員の皆さん、そして気持ちよく参加していただいた広島市の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

（文責：事務局）